

校内文化祭で柳橋歌舞伎を披露する御館中の生徒



# 御館中(郡山)に民報厚生文化賞

## 柳橋歌舞伎普及に貢献

地域づくりや伝統文化、産業を守り育てる活動に取り組む個人・団体をたたえる福島民報厚生文化事業団(理事長・花田嘉福福島民報社取締役相談役)の「民報厚生文化賞」の第四回受賞団体は、郡山市の御館中(塚本英樹校長)に決まった。全生徒が伝統芸能の柳橋(やなぎはし)歌舞伎を校内で学び、定期公演や校内文化祭で一般公開している。地域の伝統芸能の保存・普及に努め、郷土愛をほぐくんでいる点が高く評価された。表彰式は十六日午後一時から福島市の民報ビルで行われ、同校に百万円が贈られる。(2面に関連記事)

郡山市中田町柳橋地区に伝わる柳橋歌舞伎は市重要無形民俗文化財に指定されている。御館中は総合学習の時間を活用し、古里の伝統芸能の体験学習を実施。地域の保存会(メソッド)が、江戸時代から引き継がれ、神社で奉納されている歴史や歌舞伎の言い回しや演じ方などを教える。三味線の演奏、舞台の演出も本格的に指導している。

こうした地域と連携した取り組みが、生徒の表現力向上や伝統文化への興味醸成、地域の高齢者との世代間交流につながっていると高く評価された。

民報厚生文化賞は福島民報の創刊百十五周年を記念して創設された。安心して暮らせる地域づくりや新しい視点で地域を支える活動、伝統文化や産業などを守り育てる取り組みを展開している個人・団体をたたえている。今回は自治体などから推薦を受けた九団体が応募した。予備審査で五団体に絞り、本審査で受賞団体を決めた。

本審査に残った三春町の沢石中、須賀川市の松明をもちたてる会、西会津町の出戸集落活性化推進協議会、相馬市の相馬高相馬太鼓部の四団体には五万円が寄贈される。

多くの方に感謝  
塚本英樹校長の話 地域の人に支えられながら、全校挙げて取り組んできた活動が評価され、大変うれしく思う。皆さんに感謝している。今後、地域の教育力を生かして、伝統文化を尊重する心をはぐくんでいきたい。